



## ～家庭の持つ「5つの力」～

**1 愛の力**・・・家庭は親から子に愛情が注がれる場所です。いつも家庭に会話があり、笑いがある。誰かにいいことがあるれば、みんなで喜び、悲しみも全員で共有する。こんな日常が子どもの安定した心理状況を育てます。

**2 経済の力**・・・衣食住全ての面で子どもの生活が保障され、学校にも通える。家庭はこうした「健康で文化的な最低限度の生活」を子どもに提供する場所です。そのために親は働いてお金を稼ぎます。家庭は経済の力を持つ場所だということです。

**3 しつけの力**・・・自分の健康管理や公共マナー、他者との交わり方など、しつけの領域は多様です。そうした礼儀作法や規範を教えて身につけてさせる場所が家庭です。

**4 文化の力**・・・文化とは、音楽や美術に親しみ、時にはスポーツを楽しむといった高尚なものだけではありません。親子の触れ合いこそが「家庭の文化」です。最も簡単な文化活動は、家族の団らんであり会話です。日常の出来事に対する喜怒哀楽のやりとりです。

**5 人格の力**・・・子どもは親をまねて育ちます。子どもは育ててほしいようには育たない。育てたように育つのです。「人格の力」と言っても気負うことはありません。いつも地道に働いて、親同士が仲良く、互いに労わり合う飾らない姿を示せばいいのです。(全国教育文化研究所 重水 健介)



子育ては社会が担うようになると、特に3・4・5は、家庭とこども園で協力して担うようになります。



### \*\*\*癩癩(かんしゃく)は成長過程の特徴\*\*\*

赤ちゃんは空腹や眠気、おむつが濡れているなど、不快な思いを泣くことで表現します。すると親は、あやしたり、ミルクをあげたりして、それを解消しようとします。それは親子の大切なコミュニケーションの始まりです。

1歳になるとつかまり立ちやハイハイで行動範囲や視野が広がり、興味のあることが増えます。ところが自分の思い通りにできないことが多く、不満な気持ちに、

不快や不安が加わり、癩癩(かんしゃく)を起こすようになります。

原因を取り除いても、いったん癩癩が起きると、自分で気持ちをコントロールできない状態になり、地面に寝転がって奇声をあげたり、泣き叫ぶ、物を投げる、人をたたくなどのパニックを起こします。

2・3歳になると自我が芽生え意思表示ができるようになると、自己主張で癩癩やパニックが激しくなります。これが「魔の2歳児」です。

そんな時は、場所を変えることで気持ちが変化し、落ち着けることがあります。抱きしめたり、背中をトントンしたりしてあげることも効果的です。泣き止むのを待って、しっかり褒めることが大切です。

体と脳が著しく成長し、何でも自分でチャレンジする自立の勢いが、大人には反抗期に見えるのですが、親にとっても子どもにとっても、自立に向かっていく大切な時期なのです。やがて親の言葉を理解し、表現やコミュニケーションの取り方が分かってくると、癩癩やパニックは減っていきます。

発達障害の子どもの場合も同じような対応が効果的です。子どもが癩癩やパニックを起こすのは、親の責任ではなく、成長過程や特性であることを理解すべきです。11月25日(土) 読売新聞「子育て応援団」より

**やっと忘年会**が解禁になったようですが、最近の若者は、上司と一緒にお酒を酌み交わすのは「うざい」(わずらわしい)ようです。お酒を飲むなら気の合う仲間であらう。「とりあえずビール」も今や死語で、それぞれが好きなドリンクを選ぶようになりました、ですから、上司に気を使いお酌をする行為は「うざい」のです。上司は、「今日は無礼講だ!」と言いますが、「本心ではない」と若者は見ているのです。世の中、すっかり変わりました。

### ～～12月4日(月)から12月9日(土)までの予定～～

4日(月) 訓中の総合的な学習の時間に永井先生が講師でこども園の話をしてきます。(予定)

5日(火) 分掌主任会議(T)

8日(金) 園内研究会(小中学校の先生や他の園から先生方が来ます)

朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。路面凍結で滑りやすくなっています。

**\*インフルエンザ流行中、こども園にもまん延の兆し!**

今年の苦勞を忘れよう!

### 忘年会

